

GENSEI-SEIBUTSU

原生生物

第 2 卷 第 2 号 (2019)

目次

第52回 日本原生生物学会大会（水戸）のご案内（第2報）

北出 理（茨城大学）	1
------------	---

書 評

「小学館の図鑑 NEO [新版] 水の生物 DVDつき」 

白鳥 峻志（海洋研究開発機構）	5
-----------------	---

第8回 ヨーロッパ原生生物学会議（ECOP-ISOP 合同会議）への派遣助成者の参加報告 6

千原 あかね（生理学研究所）
仲村 康秀（国立科学博物館）
西上 幸範（北海道大学）
矢崎 裕規（東京大学）
梁瀬 隆二（筑波大学）

国際委員会からのお知らせ

洲崎 敏伸（神戸大学）	9
-------------	---

活性化委員会からのお知らせ

末友 靖隆（岩国市ミクロ生物館）	9
------------------	---

学会等開催情報 9

若手の会 通信

矢崎 裕規（東京大学）	10
-------------	----

事務局からのお知らせ

庶務 洲崎 敏伸（神戸大学）・庶務補佐 杉浦 真由美（奈良女子大学）	12
------------------------------------	----

編集委員会からのお知らせ

「原生生物」担当 道羅 英夫（静岡大学）・矢吹 彬憲（海洋研究開発機構）	13
--------------------------------------	----

第52回 日本原生生物学会大会（水戸）のご案内（第2報）

大会長 北出 理（茨城大学）

第52回日本原生生物学会大会を、10月25日（金）から27日（日）までの3日間、茨城大学（水戸キャンパス）で開催いたします。大会3日目午後には、「新たな手法で拓く原生生物研究」というタイトルで、特に若い学生・研究者の皆さんに役立ち、刺激となる内容を目指した、大会シンポジウム（公開）を計画しております。ぜひ多くの方にご参加いただけますよう、お願い申し上げます。詳しくは、大会ホームページ（大会HP）をご確認ください。

大会HP：<https://sites.google.com/view/protist2019>

事前参加登録と演題登録は9月21日（土）で締め切りでしたが、参加登録を引き続きお受けしています。お早めのご登録をお願いいたします。なお、大会HPは随時情報を更新していきます。ぜひ定期的にご確認ください。

1. 会期 令和元年10月25日（金）、26日（土）、27日（日）

2. 会場 茨城大学・水戸キャンパス (<https://www.ibaraki.ac.jp/generalinfo/campus/mito/>)





講演会場（図書館）最寄り入口



ライブラリーカフェ。珈琲が美味しいです（27日休業）

3. 水戸大会 実行委員会

[大会長] 北出 理 [実行委員] 諸岡 歩希, 石神 広太

4. 日程

以下のスケジュール表（予定）をご覧ください。

25日(金)	時刻	26日(土)	27日(日)	時刻
	8:30	受付開始（～15:00） ライブラリーホール(3F)前	受付開始（～13:30） ライブラリーホール(3F)前	8:30
	8:50	開会 ライブラリーホール(3F)		8:50
	9:00	口頭発表		9:00
	9:30	ライブラリーホール(3F)	口頭発表 ライブラリーホール(3F)	9:30
	11:20	昼休み		11:35
	12:30	口頭発表		12:30
受付開始（～16:00） ライブラリーホール(3F)前	13:00	ライブラリーホール(3F)	公開大会シンポジウム ライブラリーホール(3F)	13:00
	13:30	ポスター発表		13:30
活性化委員会 セミナールーム(3F)	14:00	共同学習エリア(1F)		
編集委員会 セミナールーム(3F)	14:30	13:30～14:45 奇数番号発表 14:45～16:00 偶数番号発表 奨励賞受賞ポスター		
評議委員会	15:00			
セミナールーム(3F) 若手の会	15:30			
	15:40			
	15:50		閉会 ライブラリーホール(3F)	15:40
	16:00	記念撮影、総会 ライブラリーホール(3F)		15:50
	17:00	授賞式 ライブラリーホール(3F)		16:00
	17:15	学会賞受賞者特別講演 ライブラリーホール(3F)		17:00
	17:45			17:15
若手の会懇親会 福利会館(生協)2Fグリル	18:00	大会懇親会 茨苑会館(大学会館)食堂		17:45
				18:00
	20:00			20:00

最新の情報は大会 HP でご確認ください。懇親会以外の会場は図書館です。

5. 宿泊情報

宿泊は水戸駅周辺が便利です。各自でご予約をお願いいたします。

6. アクセス情報

キャンパス内の来客者用駐車場はわずかしかありません。公共の交通機関でお越しいただきますようお願いいたします。水戸駅から大学最寄りのバス停までは、茨城交通バスのご利用が便利です。経路により所要時間が異なります(約25分)。

水戸駅からの時刻表：大会HPの「会場へのアクセス・宿泊」ページのリンクから水戸キャンパス案内ページへ移動ください。その中の「茨城大学専用のバス案内ページ」(<http://www.ibako.co.jp/regular/univ/ibaraki-univ.html>)に掲載しています。

※10月27日(日)に、水戸市内の交通規制とバスの運行時刻の変更が予定されています。詳細がわかり次第大会HPでお知らせします。

7. 昼食

- 大学生協食堂の営業時間等は
(https://www.univcoop.jp/ibaraki/news_4/news_detail_200735.html)をご覧ください。
- 27日(日)は大学生協食堂が休業です。
- 正門を出てすぐ近くの国道123号沿いには、コンビニ、ラーメン屋、定食屋、カレー屋等があります。

8. 荷物・貴重品等の管理

大会中、クローク等をご用意いたしません。荷物・貴重品は各自で管理をお願いします。

9. 講演予定の皆様へ

- ① 演題登録期間 9月21日(土)に締め切りました。
- ② 発表資格
 - 登壇者としての発表は1人1題とし、登壇者は会員に限られます(招待講演者と小中高生の発表は除く)。
 - 学会未入会・学会費未納者の場合には講演を取り消すことがあります(招待講演者と小中高生の発表は除く)。
 - 日本原生生物学会への入会手続きについては、日本原生生物学会事務局庶務にお問い合わせください(http://protistology.jp/entry_sheet.html)。
- ③ 講演区分
 - 口頭発表あるいはポスター発表のどちらかです。
- ④ BPA賞
 - 2019年6月末で満35歳以下の発表者で、かつ研究を筆頭で推進した方を対象に、「ベストプレゼンテーション賞(BPA)」を選考・授与します。
- ⑤ 口頭発表を予定されている方へ
 - 発表時間は15分です(発表12分、討論3分)。
 - 発表には液晶プロジェクターを使用します。
 - 各自でノートパソコンをお持ちください。パソコンの操作は発表者をお願いします。プロジェクターとの相性の問題がありますので、予め動作確認をお願いいたします。
 - 液晶プロジェクターのコネクターは、一般的なミニD-Sub15ピンです。HDMI端子は接続できませんので、アダプターは各自でご持参ください。35mmスライドやOHPは使用できません。
 - パソコンをお持ちになれない方は、事前にご連絡ください。

⑥ ポスター発表を予定されている方

- ポスターを掲示できるスペースは、縦 160 cm 横 83 cm（周囲の金属枠まで含め横 85 cm）です。ポスターの外周よりやや内側を画鋏で止めれば、最大で A0 サイズ（118.9×84.1 cm）まで貼付できます。
- 貼付けに使う画鋏は大会本部で用意します。
- 会場の各パネルに演題番号がありますので、割当のパネルに掲示して下さい。
- **26 日（土）17 時まで**に回収されなかったポスターは事務局で処分いたします。
- ポスターの事前受取や事後送付は行いません。

11. 大会シンポジウム

「新たな手法で拓く原生生物学研究」と題して、公開シンポジウムを行います。

日時 2019 年 10 月 27 日（日）13:00 – 15:40

「R による統計解析初歩の初歩：一般化線形モデル」

石神 広太，北出 理（茨城大学）

「ゼロから始める大規模分子系統解析」

矢崎 裕規（東京大学），稲垣 祐司（筑波大学）

「難培養微生物のシングルセルゲノム解析」

雪 真弘，大熊 盛也（理化学研究所）

「一分子イメージングと多階層オミクスを基盤とした

ミトコンドリア・葉緑体分裂増殖機構の解析」

吉田 大和（東京大学）

12. 懇親会

- 25 日（金）の若手の会懇親会は、水戸キャンパス内福利会館（生協食堂）2F で行います。
- 26 日（土）の大会懇親会は、水戸キャンパス内大学会館（茨苑会館）で行います。

**13. 学会事務局
からのご案内**

学会の会期中に、年会費の支払いデスクを開設します（26、27 日のお昼休みに各 30 分間）。年会費は前納制ですので、2020 年度の年会費を忘れずにお支払いください。このデスクでは入退会の手続きもできます。

**14. 水戸大会
事務局**

〒310 - 8512 茨城県水戸市文京 2-1-1

茨城大学理学部

北出 理

TEL: 029 - 228 - 8375

E-mail: protistology2019@gmail.com, osamu.kitade.sci@vc.ibaraki.ac.jp

書 評



『小学館の図鑑 NEO [新版] 水の生物 DVD つき』

白山義久・窪寺恒己・久保田信・齋藤寛・駒井智幸・長谷川和範・西川
輝昭・藤田敏彦・矢吹彬憲・土田真二・加藤哲哉 監修 | 著/文

出版社 : 小学館
出版日 : 2019 年 6 月 19 日
ISBN : 978-4-0921-7307-1
価格 : 2,000 円 (税別)
URL : <https://www.shogakukan.co.jp/books/09217307>

白鳥 峻志

Takashi SHIRATORI

海洋研究開発機構 深海生物多様性研究グループ
〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町 2-15

小学館の図鑑 NEO は子供向けの人気図鑑シリーズである。その中の 1 つ「水の生物」が今年の 6 月に 14 年振りに改訂された。本書では海水や淡水に生息する生物のうち、原生生物と無脊椎動物約 1,000 種が分類群ごとに美しい写真とわかりやすい解説によって紹介されている。なお水棲の脊椎動物については、同シリーズの「魚」、「両生類・は虫類」、「動物」等にまとめられている。本書は 3 歳から小学校高学年以上を対象としているが、写真や解説とともにほぼすべてのページに各生物の体の構造や生態についてのコラムが配置されており、大人にとっても興味深い内容となっている。本書に書かれている解説は知らないことばかりで、個人的に非常に楽しく読むことができたが、一方で自身の水棲生物全般についての知識の無さを痛感した。また特集として、眺めているだけでもお腹が減ってくるような、水の生物を利用した世界各地の料理の紹介や、温暖化による海水面の上昇、海洋酸性化やプラスチックゴミといった環境問題についてもページが割かれている。様々な分類群の生物が紹介されている都合上、本書の中で原生生物

について書かれているページ数は残念ながらあまり多くはない。しかし、矢吹彬憲博士（海洋研究開発機構）をはじめとした多くの原生生物研究者による美しい写真と、要点をおさえた解説が密に盛り込まれているため、ボリューム不足はあまり感じられない。また原生生物学に携わる者として嬉しいことに、本書では原生生物の分類や系統、進化についての最新の知見が紹介されている。例えば巻末の特集では、ミトコンドリアや葉緑体の細胞内共生説について解説されていたり、系統樹では名前こそ示されていないものの、SAR やハプトシスタといった系統が再現されている。さらに本書によって原生生物に興味を持った子供のために、原生生物を観察するためのプレパラートの作成方法や、光学顕微鏡の使い方も紹介されている。本書は生き物に興味がある子供たちが、原生生物という存在を知るきっかけとして適した図鑑であるとともに、水棲生物について広く知っておきたいという大人にも是非手にとって欲しい一冊である。



Tel: 046-867-9524; Fax: 046-867-9525
E-mail: tshiratori@jamstec.go.jp
Received: 6 Sep 2019

第8回 ヨーロッパ原生生物学会議 (ECOP-ISOP 合同会議) への派遣助成者の参加報告

千原 あかね (生理学研究所)

7月28日～8月2日にイタリア、ローマにて開催されたヨーロッパ原生生物学会議に参加させていただきました。昨年度3月に会社を辞め、博士課程に進学した私にとっては約2年ぶりの学会発表であり、初めての国際会議でもあったため、出国前から不安があった上に、到着後も空港で預けたはずのポスターが見つからなかったり、部屋の電気がつかなくなったりと複数のトラブルに見舞われ、泣きっ面に蜂でした。

しかし、宿泊したコテージや学会会場のリゾート感溢れる陽気な雰囲気のおかげで、落ち着いて発表に臨むことができました。

今回私は、修士課程で所属していた神戸大学洲崎研究室でのテーマである、有中心粒太陽虫ハリタイヨウチュウの細胞外被殻の形成機構について発表しました。英語が不得意なので、質問に対して正しく答えられたかはわかりませんが、同じ様に有中心粒太陽虫の被殻をテーマに研究している方に初めて出会い、お互いの研究についてディスカッションできたことは、とてもいい経験となりました。

また、今回参加して感じたのは、原生生物の研究はテーマ、手法が非常に多様であるということです。どの発表もそれぞれオリジナリティがあり、新たな知見を得る事ができました。

Social Event では、Appia antica (アッピア街道) を案内いただきました。非常に壮大で「全ての道はローマに続く」という言葉を実感しました。

学会外でも、ローマの有名どころをざっと観光したり、宿泊していたコテージで毎晩遅くまで(稀に朝まで)ワイワイしたりと楽しい時間を過ごし、充実した日々を過ごす事ができました。

最後になりましたが、本学会の参加費は日本原生生物学会を通して、月井雄二記念国際交流基金より助成していただきました。この場をお借りして、月井先生、ご遺族の皆様にご心より感謝を申し上げます。

月井先生とは直接お会いしたことはありませんが、先生が書かれた『淡水微生物図鑑』をよく拝見しており、おもしろい形の生物がたくさんいるんだなああとワクワクしたことを思い出します。

今回の経験を忘れず、今後の研究生活に活かし、私が月井先生の図鑑を見て感じたように、多くの人に、生物のおもしろさを伝えられるような研究者になれるように頑張りたいと思います。



Social Event 後の懇親会の様子

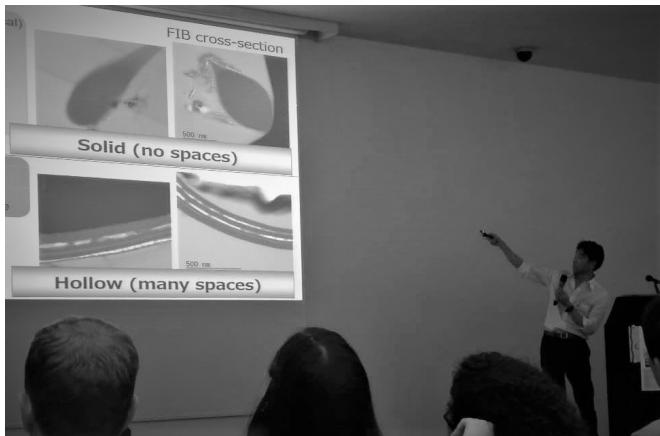
仲村 康秀 (国立科学博物館)

私は日本原生生物学会の若手国際会議派遣費助成を頂き、2019年7月28日～8月2日にイタリアのローマで開催された国際会議 VIII ECOP-ISOP Joint Meeting で口頭発表を行って参りました。単細胞動物プランクトンの生態と多様性解明に興味がある私は、その中でも培養が難しいリザリア類(フェオダリア類・放散虫類)に焦点を当て、主に船舶でのフィールド調査と固定試料に基づく研究を行っております。培養株による実験を中心とする通常の原生生物研究で用いられる手法・知識には疎いのですが、原生生物系の国際学会でフェオダリア類・放散虫類の研究成果を発表し、国際的に活躍している研究者達と情報交換を行いたいと考えておりました。

私は普段、海洋生物系や地質系の学会へ参加しているため、原生生物学を中心的に扱う国際学会に参加する事には若干の不安がありました。しかし、実際に参加してみると細胞構造や生態、多様性など思っていた以上に様々な方面からの研究が紹介されており、私のようなフィールド研究についての発表も多くありました。特に、DNA メタバーコーディングやそのデータ解析手法に関する研究が多かったように思います。また、対象生物としては繊毛虫に関する発表が多くなされている印象を持ちました。私はフェオダリア類・放散虫類の骨格構造と系統分類に関する問題点(遺伝子と形態の不一致など)についての口頭発表を行ったのですが、発表後には様々な研究をされている方々から多くの質問を頂く事ができ、幅広い分野の研究者に興味を持ってもらえたように思います。休憩時や昼食時には、様々な国の研究者と研究に関する情報を交換する機会に恵まれ、研究だけでなく文化の違いなどについても楽しく話し合う事ができま

した。

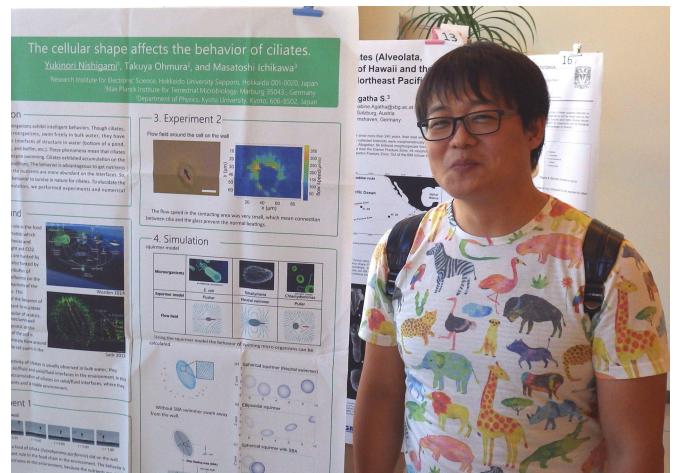
若手国際会議派遣費助成により与えられた今回の貴重な体験により、私の知的好奇心はさらに強く刺激され、有益な知見と良い思い出が得られました。また、原生生物学に関する知識をより身に着けた、さらに質の高い研究をしたい、という気持ちが以前にもまして強くなりました。次回の国際学会ではさらにレベルの高い研究を発表したいので、そのための努力を今後も続けるつもりです。最後に、私の研究を支えて下さった共同研究者の皆様とこの度の助成対象に選んで下さった選考委員の方々および故月井雄二博士とそのご遺族の方々に、厚く御礼申し上げます。



口頭発表中の著者

ター発表を行いました。分野違いの研究者の方々にも話を聞いてもらえる良い機会になり、本会議で初めて話したアメリカからの参加者と関連分野に関して共同研究を進めていくことになりました。本会議に参加したことで、この分野の面白さを再認識したことに加え、日本の研究の独創性や面白さを感じることができました。今後、日本の原生生物研究がユニークで面白い研究だと世界で評価されるよう努力していきたいと思っています。

本学会の参加費の一部は日本原生生物学会月井雄二記念国際交流基金に助成していただきました。原生生物学会員の皆様に加えて、特に故月井雄二先生や月井先生の遺族の方々に深くお礼申し上げます。



ポスター発表中の著者

西上 幸範 (北海道大学)

2019年7月28～8月2日にイタリアのローマで開催された“VIII European Congress of Protistology-ISOP Joint meeting”に参加しました。タバコ屋で購入した主要駅からホテルまでのバスチケットが使用済みだったというイタリアの洗礼を入国後、数時間で受けたり、乗車していたバスの前方の車が事故をして、深夜のバスに一時間以上閉じ込められたりもしましたが、今となってはとても良い思い出です。町の人々はとても丁寧に道を聞いたら目的地まで連れて行ってくれたり、イタリア語でしゃべりかけてきたおばちゃんに「英語しかわからない」と伝えたところ「私は英語が喋れない」という話を英語で20分ぐらいしてもらったり、とても温かみを感じることができました。時間の都合で入場することはできませんでしたが、古代ローマの遺跡群は外から見るだけでも圧倒されるスケールで映画の世界に入り込んだようでした。また食べ物も美味しく、ピザの食べ過ぎで帰国後、妻に「また太った？」と言われてしまいました。

研究発表は、“The cellular shape affects the behavior of ciliates”と題して繊毛虫の細胞形状と行動に関するポス

矢崎 裕規 (東京大学)

梅雨も明けきらない7月27日に、これから参加するVIII European Congress of Protistology-ISOP Joint meeting (7月28日～8月2日、以下ECOP2019)が開催されるイタリア、ローマへ旅立つため、私は羽田空港国際線ターミナルに立っていた。今回の旅程は中国広州での10時間の乗り継ぎ待ちを含めて24時間を超える長旅だ。案の定、大変な旅の影響は、初めて時差ぼけにかかるという形で露呈した。強烈な時差ぼけは現地時間16時くらいに私に対して急激な眠さを誘引した。しかし、ECOP2019はこれまでの大変だった旅程と時差ぼけが引き起こす眠気を忘れさせてくれるほど面白く、素晴らしいものだった。現在、半歩だけ原生生物の世界から外側にいる私にとって、世界の原生生物研究に浸った6日間是非常に幸福であり、少し落ちかけていたモチベーションをあげることができた。

MetamonadsやDiscobaに興味のある私にとっては、Jeremy Wideman博士によるKinetoplastea最基部から分岐する新奇生物のミトコンドリアゲノム解明やLukáš V. F.

Novák 氏によるミトコンドリアを欠損した *Monocercomonoides* を含む *Preaxostyla* における ATP 合成やアミノ酸合成に関する発表などが印象的だった。また、原生生物学会所属の研究者の発表も非常に面白く、仲村博士の *Phaeodaria* の細胞骨格と系統解析から新たな細胞ステージを解明した成果や梁瀬博士のハプトネマの運動に関する研究などは各国の原生生物研究者に強いインプレッションを与えていたようだ。私のポスターセッションでは、渦鞭毛藻共生体におけるオートファジーに関する研究成果に関して、Vladimir Hampl 博士らと有意義な議論を交わすことができた。本学会の発表の多くが大規模シーケンスデータを基にしており、近年の技術進歩が目覚ましい Oxford 社の Nanopore シーケンスを用いた成果もいくつかあった。数年前から思っていたが、大規模シーケンス解析は既存の技術であり、さらなる“次世代”もしくは“違う切り口”が必要であると改めて感じた。

ピザとワインをはじめとした美味しいイタリア料理もさることながら、ECOP2019 もお腹いっぱい楽しめた。この満腹感だけでは終わりにすることなく、しっかりと消化して自分の研究を昇華できるように努めたい。最後に、本学会に参加し、研究成果を発表できたのは、月井雄二記念国際交流基金があったからにほかなりません。月井先生とご家族の皆様、ならびに日本原生生物学会へ心より感謝申し上げます。



エクスカーション中の一コマ

■ 梁瀬 隆二 (筑波大学)

この度、月井雄二記念国際交流基金（若手国際会議派遣費助成）よりご支援をいただき、イタリアローマ市で行われた第8回ヨーロッパ原生生物学会議に参加し、研究発表を行って参りました。

学会大会は7月28日から8月2日の6日間に渡り

Crowne Plaza Rome-St Peter's hotel の会議場にて行われました。会議はデンマークの海洋生物学者である Tom Fenchel 教授による「原生生物の大きさ、形態、構造と機能的制約」についての基調講演に始まり、原生生物の多様性、ゲノミクス、細胞構造、進化、寄生・共生などをテーマとした様々なシンポジウムと口頭発表、ポスター発表が行われました。これまで論文などでしか知る機会のなかった世界的な原生生物研究者たちによる講演を生で聞いたことは非常に貴重な経験でした。

私は大会3日目に「Microtubule dynamics in the haptone of haptophyte algae」というタイトルで口頭発表を行いました。私の拙い英語で内容が十分に伝わったかどうかはさておき、発表後は何人かの研究者が話をしに来てくださり、大変嬉しかったです。

大会中にはツアーイベントも行われ、「Villa dei Quintili」と呼ばれる古代ローマの遺跡を訪れました。ツアーではかつてローマ人が使用していた巨大な浴場の跡を見学したり、古代の楽器を用いた音楽や踊りを鑑賞し、古代ローマの文化にも触れることが出来ました。

この一週間、国際会議に参加し、世界の研究者と交流し、様々な研究を知ったことは、自身の研究に対する大きな刺激になったと同時に、今後さらに研究に取り組んでいくための原動力にもなりました。この度、国際会議参加のためのご支援をいただきました月井雄二記念国際交流基金、そして日本原生生物学会に心より感謝いたします。これからもこのような学会からのサポートが継続し、若手研究者が海外に出ていく多くの機会が作られていくことを願っています。



古代ローマ遺跡での一コマ（右：梁瀬，左：永宗先生）

国際委員からのお知らせ

洲崎 敏伸 (神戸大学)

2019年7月28日～8月2日に、イタリア国（ローマ市）において第8回 ヨーロッパ原生生物学会議

（ECOP）・国際原生生物学会（ISOP）合同会議が開催された。学会の参加者は全体で386名、そのうち日本からの参加者は20名であった。学会の期間中にはISOPの運営会議も行われ、本学会からは国際委員の3名（春本・洲崎・永宗）が参加した。そこでは、ISOPの会計

報告・活動報告と共に、今後の関連学会の開催予定についても以下の通り報告があった。

2020年のISOP/ISEP合同会議: メキシコ・カンクーン市

2021年のICOP: 韓国・ソウル市

2023年のECOP: オーストリア・ウィーン市（ドイツ原生動物学会がホスト）

活性化委員会からのお知らせ

委員長 末友 靖隆 (岩国市ミクロ生物館)

準会員制度の強化について

一昨年の総会での承認以降、整備を進めております準会員制度について、対象となる小・中・高等学校等の先生方が入会によって得られるメリットを増すべく、活性化委員会では制度の強化を含む対策案の整備について協

議を進めています。今年度の総会にて様々なご提案、ご報告をさせていただく予定ですので、ご期待いただければ幸いです。当学会の益々の活性化に繋げるべく、今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学会等開催情報

国際

会議名 : American Society of Tropical Medicine and Hygiene, 68th annual Meeting

会 期 : 2019年11月20日（水）～ 11月24日（日）

会 場 : Maryland, USA

連絡先等 : 大会 HP (<https://www.astmh.org/annual-meeting>)

国内

会議名 : 日本共生生物学会第3回大会

会 期 : 2019年11月19日（火）～ 20日（水）

会 場 : 理化学研究所 横浜キャンパス（横浜市）

連絡先等 : 大会 HP (<https://sites.google.com/site/japansymbiosis/Symbio2019>)

若手の会 通信

矢崎 裕規 (東京大学)

原生生物学会若手の会の会長に私が就任してから、およそ 10 ヶ月 (9 月 1 日現在) が過ぎました。長いようで、短い、そんな 10 ヶ月間。社会に目を向ければ平成が終わり、新たな元号である令和に移り変わるという誰もが目を見張るようなビッグイベントがありました。私達、若手の会の活動はそれほどまでのビッグイベントはありませんでしたが、少しずつではありますが原生生物学を盛り上げようと、イベントを企画しています。今回の若手の会通信では、若手の会が関わっています原生生物・寄生虫・進化セミナー (通称 PPE セミナー) と関東プロティスト倶楽部の紹介と、原生生物学会水戸大会に先立って 10 月 25 日 (金) に行われます原生生物学会若手の会「キャリアセミナー」を宣伝させていただこうと思います。

原生生物・寄生虫・進化セミナー

前回の松江大会において新・若手の会会長として様々な活動に関する情報収集を行ったところ、関西地区で活躍する同世代の原生生物研究者から関西地区では定期的に複数のラボが集まりセミナーをしているという話を聞きました。私が研究の拠点としている関東圏では、定期的にいろいろな大学や研究機関の研究者が集まるセミナーが少なく、そのようなセミナーを企画したいと思っていました。そういった中で、関東で活躍する麻布大学の小林富美恵先生、法政大学の島野智之先生、国立感染症研究所の永宗喜三郎先生、若手の会の役員の一人名もある海洋研究開発機構の矢吹彬憲先生と会談する機会があり、同様に定期的なセミナーをやりたいという思いが一致しました。そこで、小林先生を中心に私を含めた 5 人が発起人となり、原生生物を中心に寄生虫や進化学を含めて、様々な背景の研究を紹介し議論することをコンセプトとして、毎月 1 回程度 1 人の若手研究者を中心としたセミナー、原生生物・寄生虫・進化セミナー (PPE セミナー) を立ち上げることとなりました。11 月 8 日に行われた記念すべき第 1 回目の PPE セミナーは私が担当させていただきました。それに続いて、原生生物の細胞内機構、水産学、寄生虫学、遺伝子進化やさらにはバクテリアのゲノミクスまで、様々な研究をセミナーで講演してもらい、白熱した議論をしてきました。演者も、若手研究者が中心ですが、その道 10 数年の著名なベテラン研究者から博士課程に入ったばかりの学生まで様々で

す。第 1 回から現在までに、ほぼ毎月、法政大学富士見キャンパスで開催し、開催回数は 10 回 (9 月 1 日現在) となりました。最初は参加者 5 名程度でしたが、回を重ねるごとに参加人数が増え、最近では毎回 20 名前後の人数が集まるようになりました。

そんな、PPE セミナーでは参加者はもちろんですが、講演者の募集もしています。また、次回の PPE セミナーのお知らせや参加登録は以下の URL で確認ができます。

<https://kantoprotist.wixsite.com/tgef-protist>

非常に面白いセミナーだと自負していますし、損はさせませんので、みなさま、ぜひ一度いらしてください。

関東プロティスト倶楽部

第 6 回関東プロティスト倶楽部は PPE セミナーの一部として年度末最後の金曜日である 3 月 29 日に開催しました。関東プロティスト倶楽部は、関東を中心に活躍する原生生物を対象とした研究者が集結して最新の研究成果をぶつけ合う研究集会で、2011 年に筑波大学で行われた第 1 回からこれまでに 5 回開催されました。若手研究者や大学院生、さらには外国人研究者にいたるまで多様な演者によって、原生生物を中心に進化学、寄生虫学、海洋学、運動力学など多様切り口の発表がおこなわれており、講演の途中で鋭い質問を投げかけても良いという非常に活発な議論を推奨している興味深い会でしたが、2015 年を最後に行われていませんでした。この関東プロティスト倶楽部を眠らせておくのはもったいないと長年思っていたなかで、タイミングよく PPE セミナーが始まりました。そこで、原生生物学会若手の会主催の年 1 回程度のちょっとしたイベントとして関東プロティスト倶楽部を復活させようと企画しました。復活した第 1 回目 (通算第 6 回目) は、法政大学のボアソナードタワーを舞台に、日本獣医生命科学大学講師の常盤俊大先生をはじめ博士課程の学生である久米慶太郎さん (現筑波大学助教)、山下翔大さん (現東京大学 D3)、そして若手の会の役員でもあります矢吹先生と立命館大学の柴田あいか先生に講演をしてもらいました。原生生物の多細胞化、行動学、疫学、センシング、そして機械学習まで、多様性に富んだ話題を提供していただき、参加者 40 名超えの大盛況でした。ボアソナードタワー 26 階の

ラウンジから東京の夜景を眺めながら行われた懇親会では、多くの参加者が原生生物談義に花を咲かせていました。今後も年1回のペースで関東プロティスト倶楽部を続けていこうと考えていますので、PPEセミナーだけでなく関東プロティスト倶楽部にも参加していただけると幸いです。また、関西でも年1回程度のセミナーを企画していると聞いていますので、コラボレーション企画を実現することを若手の会会長として目指したいと思います。



関東プロティスト倶楽部での一コマ
(山下さんによる緑藻多細胞化についての発表)

のように進めていけば良いか、学生から若手研究者は悩んでいます。特に、一般的な企業とは違いキャリアパスが不明瞭なことが多く、どのように努力すれば良いかわからないことが多いと思います。そこで、ロールモデルとなる4名の先輩研究者の方に、どのようなキャリアパスを歩んできたかをパネルディスカッション形式で悩める若者に伝えていただくという企画です。パネリストとしては東北大学の福田康弘先生に加えて、先だって紹介したPPEセミナーに参加いただき原生生物学会へ興味関心を表明頂いている海洋研究開発機構の野牧秀隆先生(有孔虫を含む海洋プランクトンの物質循環)、法政大学の植木紀子先生(緑藻などの光応答行動、細胞分裂周期調整)、筑波大学の湯山育子先生(サンゴと渦鞭毛藻の共生関係)の男性2名、女性2名をお迎えします。少しでも研究の道を考えている皆様、ぜひともキャリアセミナーにいらして、キャリアへ関する悩み・不安を輝かしい未来への希望に変換していただければと思います。10月25日(金)15時30分から茨城大学水戸キャンパス図書館3階ライブラリーホールでお待ちしております。

原生生物学会若手の会「キャリアセミナー」

10月の原生生物学会水戸大会において、若手の会ではキャリアセミナーを企画いたします。昨今多様化していく社会の中で研究者・研究職を目指した場合どのようなキャリアパスが有るのか、今後の研究人生をど

日本原生生物学会若手の会では、皆様のご意見を募集しています。ご意見、ご要望をお寄せ下さい。

また、若手の会役員も随時募集しています。興味のある方は(young.protistologists.jsp@gmail.com)までご連絡ください。

若手の会ホームページ <https://sites.google.com/site/youngprotistologists/>

2019年度 若手の会役員

会長

矢崎 裕規(東京大学)

副会長

嶺井 隆平(長浜バイオ大学)

庶務

梁瀬 隆二(筑波大学)

会計

内之宮 光紀(電力中央研究所)

ホームページ担当

桐間 惇也(あすたむらんど徳島)

柴田 実咲(奈良女子大学)

梁瀬 隆二(筑波大学) 兼務

役員

池田 理佐(岡山大学)

井坂 友紀(奈良女子大学)

大北 千紗(奈良女子大学)

唐澤 宗宏(神戸大学)

小森 美沙希(奈良女子大学)

佐々木 愛澄(奈良女子大学)

柴田 あいか(立命館大学)

白鳥 峻志(海洋研究開発機構)

末友 靖隆(岩国市ミクロ生物館)

谷口 篤史(基礎生物学研究所)

中村 憲章(福井県立大学)

西上 幸範(北海道大学)

矢吹 彬憲(海洋研究開発機構)

山根 菜摘(奈良女子大学)

事務局からのお知らせ

庶務 洲崎 敏伸（神戸大学）・庶務補佐 杉浦 真由美（奈良女子大学）

評議員会では、2018年10月～2019年8月の間に11回のメール評議員会を開催し、以下の事案について協議・決定しました。

- 1) 原生生物学会の名誉会員が大会に参加される場合、大会の参加費を免除される規定（名誉会員推薦の内規）がありますが、近年それが周知徹底されておらず、大会費（一般）をお支払いいただいていたケースが複数件見つかりました。そこで、お支払いいただいた金額を、学会の会計より返金しました。
- 2) 学会の細則と申し合わせについて、以下のように取り決めました。

細則：会則を実施するために必要な事務的、技術的な事項並びに運用等に係わる具体的事項について、評議員会の議を経て定めるもの。

申し合わせ：会則、細則等の解釈、細部の運用、その他の事項について、各種委員会等および事務局において申し合わせるもので、評議員会に報告する。

なお、細則に関しては、準備ができ次第、順次ホームページで公開いたします。

- 3) 「国際委員の選出と任期に関する申し合わせ」、 「ACP 日本委員の選出に関する内規」を廃止し、現状に合わせた形で新たに「国際委員に関する細則」を制定しました。
- 4) 「学会賞等に関する細則 項目 12」を、改訂し、評議員以外の一般会員の中からも学会賞等選考委員会委員を選任できることとしました。
- 5) 若手の国際会議への派遣費助成についての選考委員会は、学会賞等選考委員、国際委員、会計担当評議員で構成することとしました。
- 6) 2019年7月28日～8月2日にイタリア国（ローマ市）で開催された第8回ヨーロッパ原生生物学会議（ECOP）－国際原生生物学会（ISOP）合同会議に出席する若手会員に対して旅費・滞在費の一部を援助することが決定され、希望者を公募し、選考委員会による審査を行った結果、5名の会員（千原あかね、仲村康秀、西上幸範、矢崎裕規、梁瀬隆二：順不同、敬称・所属略）に各15万円が助成されました。なお、本助成金は、昨年設立された月井雄二記念国際交流基金より支出されました。

7) 和文誌「原生生物」の pdf での公開方針について検討し、投稿規定に定められている原著論文、総説、コメンタリー、書評、特別寄稿、およびその他編集委員会が認めたものについては、これらの記事の単独の pdf ファイルも作成し、雑誌の Volume 単位の pdf と共にホームページから公開することになりました。

8) 本学会の「学会賞等に関する細則」では、「学会賞等選考委員会が原案を作成し、結果を評議員会に諮って受賞者を決定する。」となっています。これまでの慣例では、もしも学会賞の候補者が評議員である場合には受賞者候補を評議員会の出席者から除外して審議しています。そこで、これを明文化し、細則を改訂しました。

9) 学会賞等の公募を行い、学会賞等選考委員会から提出された原案を評議委員会で審議した結果、今年度の受賞者を以下の通り決定しました。

学会賞：永宗喜三郎氏（国立感染研）

トキソプラズマの寄生戦略に関する分子細胞生物学的研究

奨励賞：ソンチホン氏（生理研）

繊毛虫ミドリゾウリムシにおける細胞内共生機構の解析

編集委員会からのお知らせ

「原生生物」担当 道羅 英夫（静岡大学）・矢吹 彬憲（海洋研究開発機構）

10月に入り涼しい日も増えてまいりました。もう夏の暑さも懐かしくなり少し寂しくもあります。秋の夜長のお供として和文誌「原生生物」第2巻第2号をご覧ください。幸いです。

学会会報と学術情報の発信という重要な役割を担う当雑誌は、前号より編集長 道羅英夫（静岡大学）、編集委員 矢吹彬憲（海洋研究開発機構）という新体制に移行しております。これまでの編集体制に敬意を払い、雑誌としての価値を損なわぬよう精一杯努力して参ります。掲載する学術論文・記事の種類としては、〈原著論文〉に加え、原生生物学の特定分野の研究について概説する〈総説〉、近年公表された論文や試験的な取り組みについて議論する〈コメンタリー〉、原生生物学分野の著作物を紹介する〈書評〉となっております。投稿規定は、学会ホームページに掲載しております。皆様ご確認いただきお気軽かつ積極的にご

投稿くださいませ。雑誌の魅力向上と活性化のために引き続き皆様のお力添えをお願いします。学生会員の皆様におかれましても、もちろん投稿資格を有しております。〈原著論文〉はハードルが高くても〈コメンタリー〉なら・・・という方もいらっしゃるかと思います。荒削りの原稿であっても相談しながら適切な形に整える手厚いケアシステムを用意して待っておりますのでいつでもお気軽に相談くださいませ。もちろん一般会員の皆様も投稿よろしくお願ひします。

次号、和文誌「原生生物」第3巻第1号は、来年4月の発刊予定です。掲載する各原稿は、3月初旬の締め切りを予定しております。皆様の情報発信と討論の場として活用していただければ幸いです。

和文誌「原生生物」投稿規定は[こちら](#)

会費等振り込み先

郵便振替口座

郵便振替口座番号：01300-6-103583

加入者名：日本原生生物学会

銀行振り込み口座

ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店番：139 カナ店名：イチサンキュウテン（139 店）

当座貯金 口座番号：0103583

受取人カナ氏名：ニホンケ`ンセイセイフ`ツカ`ツカイ

原生生物 (GENSEI-SEIBUTSU) 第2巻 第2号

令和 元年 10 月 18 日 発行

編集兼発行者：日本原生生物学会

発行所：日本原生生物学会

事務局：庶務担当 洲崎 敏伸, 杉浦 真由美

E-mail: gajsp@protistology.jp

編集局：〒422-8021 静岡県静岡市駿河区大谷 836

静岡大学 グリーン科学技術研究所 遺伝子実験棟内

「原生生物」編集長：道羅 英夫

Tel/Fax: 054-238-6354

E-mail: dora.hideo@shizuoka.ac.jp
